茶之湯三傳集　に

478

茶之湯三傳集巻之四

客振之巻

返事調様之事

客入の次第之事

中座心得之事

下座乃心得之事

主人御茶立下時之事

主人之供仕時心得之事

客炭之事

客まふ之事

懐中すべき物之事

臺子風炉一尺四寸半之事
貴古也乃扱時の事
自在鎖乃扱之事
お之字の事
唐庭灰之事
掛物乃様之事
花見様之事
盆點之事
盆點子替之事
袋茶碗之事
臺天目之事

夜會之事
茶杓之様之事
袋之様之事
茶入之様三ツ之事
風炉炭之事
手水遣様之事
足袋之口傳之事

寸法之巻

數寄屋寸法之事
雪隠之寸法之事
鎖之間之寸法之事

利休堂古寸法之事
織部堂古之寸法之事
手水鉢之寸法之事
手水桶寸法之事
手水抜杓寸法之事
臺子寸法之事
袋棚寸法之事
楊桜棚之寸法之事
同棚寸法之事
小俵臺寸法之事
小板之寸法之事

自在寸法之事
雪隠簾寸法之事
刀掛の脇ニ吹抜簾之寸法之事
羽簾之寸法之事
風爐先屏風之寸法之事
臺子屏風の寸法之事
風爐小板寸法之事
遠州之薄板寸法之事
角薄板寸法之事
竹輪之寸法之事
茶巾寸法之事

茶帨寸法之事
帨巾寸法之事
水盈寸法之事
懸棹寸法之事
長火箸寸法之事
炉火箸寸法之事
風炉火箸寸法之事
灰捄寸法之事
小灰捄寸法之事
廬叉寸法之事
茶筌洗寸法之事

釘口之寸法之事
柄杓寸法之事
茶筌寸法之事
炭取之寸法之事
数寄屋行灯寸法之事
短檠寸法之事
遠州筒花入寸法之事
釣瓶水指寸法之事
拍子木之寸法之事
真手桶寸法之事
囲炉裏五徳寸法之事

風炉五徳寸法の事
路次げた寸法の事
紹鴎茶酌寸法の事
利休茶酌寸法の事
遠州茶酌寸法の事
ごうれんぐちの扁寸法の事
喚鐘の手木の扁寸法の事
石燈籠寸法の事

茶之湯三傳集巻之四

一 客振(きやくぶり)之次第
　返事書(かき)様の事

一 貴札殊ニ来ル十四日之御朝茶ニ可下され候忝
存候へ共家来上申上候恐惶謹言
　十月七日

其網(そのえ)ニ遁(つつしみ)也いろ様(さま)の貴人高位(かうい)の事と存じ
上上を続(よまき)文之書様候之厳家(そのうち)り答ふ

一 見合(みあい)の茶湯じきに成て八先約(せんやく)と申て雑言(ざふき)と八
何き世よ人の位あらバ何人合の相手具(つぶさ)ニ一両進之

一 三宗匠の外上座ニ極(きはま)る人の事亭主(ていしゆ)は去心も

一 し茶をお手前付まいらせ候はゞ湯もとお客人の方
へ遣し申合よろしき也
一 時に書付まいらせ候はゞ手を[illegible]茶を立て早く待合にて
に茶也茶の湯時は待合に出る支度をなさるべき也
一 [illegible]などは八書などにつとむべき時は又々断の[illegible]
[illegible]の事に左様申さるゝお客にも八寸中に[illegible] 次
第に二ツ出せ申候一しきりに断にまゐらせる
かよひもの貴人の前にては袖の下にて[illegible]中使
に遣し納め也
一 茶の湯の飯台に礼に行事は又其方へは[illegible]申すべし
入申候ては御茶の下の中の継に昆布の造り大事

拝見仕候との作法の座付などにおいて茶の湯のあしらひに
あらき[illegible]進言答などに向ふは昆布さし茶の湯にて茶一入宗
其外などとする又は血点[illegible]茶碗台に天目などは
いかさま[illegible]ツ進言答へ入宗其外とても人茶の
湯功者などきちんと和手などにも申す其上にお[illegible]を
書つかはし納めよ
一 とり合食色首尾よくまいり網まいらせは和宅して行
容入の次第の事
一 夜とも何れのぬれと勝負する時の客はつまり
様子の事中は取るとも明日まいらせる故
宗とのお客と案内にと納め亭主は入中にて置

か明ケけてあこ向て中合上ゟ座先へ廻り畳ゟ上座
此掛物あるかハ先通り字計此客衆して拝見之梅くをを
此口へかゝり先戸とを明ケ口を見之此かくの掛ニ座入此初り
と云文字口へ入先書院此中略口とを見戸しを立ふる跡
戸くしも後戸ハ上座ゟ立ふる文字へし此戸ハ一人くニ立也
入掛りて後戸ハ下座此役ある刀かけニ向ひ刀を掛き
かけ置縁台脇子とかけて刀を上り此戸とを三度
ま開け先口此縁台を見て口へ入る也脇きとく
下座てちき処をけこ此板よと揚かけ梅床へ
ひよかけ処とをる奥ニ記ス掛天目へ入るか此加さる也
とあん釜一向ニ其此端ニ不也爐中とみん立口伝此先中

座ニ居てあるこ此躰上座とん茶を後ニ入切ゟ座布く
あるとき先ハ大幟口を目通して手する中座下座座はく時
ハ上座居あるを付亭主炭を持出莊之釜を上ケ羽
箒あつく炉縁をちく時くるとく炭此るへ也とよんる
炭する門極て鐶掛むかうき押ゑあし炭仕舞置
物とら盆のやうする時香合ゟおしるゝと云亭主ひげするを
亭あく之を付おにを見先中座ニお菓子出す一時ある也
配て掛下ニ居くみゟあるを次へ渡し次すくニ見也
上座へ入之亭主何しをまひ釜を蓋見かけ出し
勝手時ニ客茶器此中よりくる之亭主見時礼をする也
亭主挽茶次第ニおす茶を同時何もあると

役掛座つき極之茶道口にて火焼口より出るとも何れ
も時宜口より掃出る一応路之亭主膳持ありて喰給居候
会席畢而物を片付置此内に何し自分此作能之吮鴻も
料之會る床拝く退付茶菓子ありて之すしを付れ
見座を見る之も者名鍋を取而出挨拶付候を
如く飲掛水き之口に清膝付けて待之を内銅鑼の音見鐘の
掛物式を見る時宜あ此通を上り入掛床に
向ひ花を見大日入莊を見る之掛座付と亭主茶
道口を明け御茶に二段と云相茶碗掛居
追いて何もあ後座を御あも後座
之掛あ茶あて帛巾をうく参て

時に上座下座に向ひて茶を進めると役掛帛巾ある時
夕よりあ分役帛巾右にし丸左此下にすゝたくし茶碗丸字
て役猶に喫て次座へ帛巾添れども後これにかくし
役也次座右にら丸次座左に二人目にし始くさもし下に至
下座へ後掛帛巾丸上座此方に拭く之上座丸いせん此下に
拭く之亭主見て釜此蓋丸く掛茶碗下座より上座此方へ
持来此時も時宜あて茶碗いきぎくて下に居て茶此始
くまんく茶碗を見るる拍次座へ渡し段く見るまあ
釜に水を入りて下に置時持茶筅あおくあり下に置之云
主丸始くを見ていきまくと出何も礼する亭主を
円孔すう之何も治茶巾而く茶碗此内巾ひく出来

時乱をつけ茶巾釜の蓋へ上ると先お作と称ていふ
まざいりまおぎいてとん身の時拵の之掛かけいしの茶盃寸
ある時よお茶入袋しめくを称ていふ時おぎ可有とも
又茶入時おも茶入袋のと蔵ひていふ時御よに扎と見
今と称時れて中座に拝きおよ〈蓋き称鼻紙れ出
しよと申ひ下に吾て入りく口清掛候こそとし下
座を上座へ拾まつ時ざぎ可有としてま佐と徳に八合
時前お多不申揖よへきこ申の候こ大きれどもて右く
了いまお茶入川上るの時何ても礼する事ざしいりとて羽
帛指おち大月門もつくもの八也のに茶人出付先
種の入炭持参致のと一炭拝見没度と称有

時宜何りとも強て所望すりの時炭入持出炭すること予くお
の通之炭拵く釜にまへ書の付るの時とりハ稽く所と礼
と称有との物座一向ひかざるものくみざるとも上り八
申されく通に座へお座の所望気とも見んの趣
も候のれ拵にて遣可の由入るよそも中立みをも
あん御時能くみんりの口清所作のけ入かりとてま
おもひひ礼可の物服束するの
一 路地入こお客衆かろかもてし露地へ内の様
ま逆引すべし香の時ハリ付て候也
一 中立の時客お席入と座と所お亀八まゝ無く
いてきそ座するるまで

一 刀掛より扇子をぬきて置之客ハ一つゝき敷居ニ扇子を揃て入る
なり主人へハ座敷此時ハ扇子ニ不構之

中座口傳之事

一 中座ハ座付大事也物之上座次座付ともに下之方
へはく一ツし口傳亭主茶を點時言葉をうけぬる時ハ脇
巾をけさとして下座へよりこし候之出入を高位此次座
ハ、かしこまりて居へくらし

下座此口傳之事

一 下座ハ中くゞりあるを上りあと戸を閉て後之隅ニ据て中
立此時ハ下座行ありきあるべしハうれしく是ニ
茶此時ハ主茶を出し亭より何と茶ニ付口切仕る

ゟ茶ハ何にても御手前と挨拶しハ下座ヲ揃て可飲て
亭主へ向ひ茶を一ツ服見たる茶進一礼申と
飲て主殊の外心味結構なりと云てこし又一口呑て揃
て行之掛く様と云之此時ハ上座茶碗を見出之

主人御茶点時之事

一 外路地待合ゟ入居時主人ゟくゞり御門明けてある是へ皆一の
通中門之所迄下へおりて土ニ手をつけ謹み礼申上
主人ハ入る時上座分膝ニ入くゞり主人席迄此時ハ上
座一人敷居ニ手を付てききて入之門へ入りて八掌に静す
御亭合座合之者もおまへへ尺合様ゟ居時主人へ
心を付金し之掛合席を付自然揃御と々自分江

掛ケ候時ハ客衆へ出シ候紙ニ包ミ皆土ヲ取りたゝし
茶ノ味ニ付候而者相ニ茶ノ時も以を出し戴き乾
上り飲之茶碗ハ帯ノ所ニ置ク茶碗ハ亭主ノ所ニ持
帰り上て以をさけ謹而居てもしめ候すゝぎ又捨候物
釜ニかゝり柄杓ヲ柄下ニ置ク時以を持ち出茶入ハ置き時
も何茶ノ用ツハて居之候気遣茶入又茶杓之見物
候相済候へ御取被成候て脱ぐめぐり渡ス亭主ニ入候所之紙
時茶道ニ而所取上候ハ御紙ニ包ミ席上ニ下を置候
礼する茶又ハ拾ヲ廻ス又も何を立之所相済一ツ
遣羽箒ハ礼申上先権ニ取又礼ニ申上ル之

主人此件ノ事

一 主人此御供ノ時ハ諸事ニ手付不案内之先路ニ付待
合ニ刀を取置き亭主御供之路次ニ而くゝり戸を前ハ時ハ下ニ居
てろし刀掛ニ而く主人此ノ脇差を刀掛ニ掛け我指ル
刀掛ノ下ニ鼻紙を扇子を入れくゝりて亭之内へ主
人のひざのまゝ一通りハ荘を入と後之居之ノ戸ニ立
候ハ先へ客ノ茶後出して一し我扇子を所し主人此
ノ脇差を抱く上ル之ノ水をかけく上ル我ハ下ニ居て
遣之座付も右円お口伝

客履此事

一 ゐり上りとつ入此時ハ何事後ハ二書在此役之

一 亭主人座よりぬ候ニ八寸ニ炭組て掛出ル事ノ主お

此炭斗ハ段し置と云て置ても張て置時ハ左掛ニして御
釜をとり上ゲかんをかけて置て其後上ニ炭を置と云
時ハ又上炭する也其時ハ炭とりニ入て羽箒火箸也
てもおへ入てかけ香合ニ入て何も炉ぶちの置所を云
あれとも何もおしてはかならず云

おもあいの事

一 亭主より頼次第と云時茶せんを持出て置まへ
時ゟ茶すくひ帛紗ニて茶入水指ニ置し茶巾茶筅
之お客へ向ひ御茶入此時道具しまひ其上ニ向て置
又上座お客茶入と引下ケ茶碗ハ上座へ
向け置て座へ左へ揃て置まハ茶入も

此きうしおちやの茶入此蓋炉縁ニかけてお茶碗
其とお客の前ニ置水指此蓋乃茶巾し置
之茶ハお客にお建てお替たる事也
上座茶入と見てハ此茶入の中ニ入置
して茶ハ左の揃ニ入て茶筅の置して

一 下と云て茶入帯此通して口伝
一 上座下座ハ互ニ色ニ此明る時ニ置てお客へ

一 懐中紙楊枝茶巾を懐中する事
懐中すべき物の事

一 亭主風炉一通り半の事
一 此時此お此上座ハ互ニ向く居つき向掛ハ主也

手前迄ハ茶事手前方下座ハ亭主の脇ニ居候
台子此の時乃事
一 すきやハ先ツ床前ニハ台子を置乃ち又ハ中立々时
台子ハ荘ある由へ数寄屋入先ツ風炉先此方を明ケ
内をみたておれ申しを明内をおん迎申たてる之
自在鎖乃様此事
一 鎖乃く毎自在ハしも鎖しもある之毎釜をかれ
く立毎日を付て立之自然上下此をさもしる事を
此様をかし自在ハ行此節を数見て一献之
おれ字此事
一 香合 袋 盆 茶酌 棚 水指 水翻 杉 茶釜 お

此字分ケ
飾座敷此事
一 広座布ハ掛物してかけ座へ向ひみてさて
掛判ぬきて荘ある之まゝ広く座敷のうち其上入
あまり掛之書面ニあつかひかへて
掛物乃様此事
一 先床とさし之人目とし方ニ居く先巻と渚ハ行方ニ行
此とみ上ゝ月付風帯をみく中一文字をみ下し
捨ハへハ捨て墨跡ハ言跡をみる之梅下一文字
中胴をみる之
一 立物ハ下ゝし能々く立之横内ハ下ゝしみ立て一月みハ

花入様之事

一花なとハ入日と遅て入るゝをれハ嫌なんと読入
てよき也

一竹花生も入様同しことをはくへし

一釣舟ハ朝ハ出舟夕ハ入舟に入よく立て一日入る也

盆點之事

一盆点の時ハ常のことく茶入を盆にあるを見て付れ
は次第ニ盆も持入仕合と給茶入れ中の下ニ
れさき座中入ぎを仕て入る盆もると帛紗を廣
ゐて織茶入侍くる座へ添し同帛紗たくし
盆の深拵たれもとを盆よ添入れもし入べく入る也
盆をとくしてから大きく縁へ帛紗深く次
座へ從し後くまへ也し手座也上座一指出ちかく
上座を持ちきぎしるを持盆もし手ぎを見るの上常に出
帛紗にて茶入壁の方ニ置て盆の中通ニ拭
切ていまお帛紗の座めく盆をれこゝへ右に茶入
上し時礼と何ですへき也

盆點習の事

一盆又茶入を置て右を事有盆和物の時之持く
帛紗を廣し盆の縁拵帛を二右し茶入持て
常のかよ當時せ次茶入れよく入次座へ拵し
盆入る也常の通まゝしてし拭ぎ三月まで

袋茶碗の事

一 袋茶碗は硯よ替りたる事なし茶碗すき湯入
両すて又湯入たる時立おろし通度之又棚へ上ケ
るもるは生立ろお床へ不囲床傍よ廿ましの一寸ち
るを重ねる時又湯一柄移へ入るへし角隅し硯尾を
とれ事なきと

臺天目の事

一 惣て臺ニ天目ハ貴人へ参る仕様之茶點ハ常の如し臺ニ
ある上座右の手ニ臺の羽を土器ニ少と掛右ニ天目を
とけ一口飲て臺を揚し下ニ置神經飲て次へ渡し
手時臺ニすつんとすゝ時次座手にすと云ハすくニ様

もて一さて帳巾たうしらめてと云帛をとり臺ニ乃
へろ之臺の羽を持なろ之見しろしへ加てよる
張くニ次座へ渡也臺天目ハ何時ても上座の茶之先
臺を先へやし帛向ニ置臺丸と天目出る之

夜會の事

一 燈掛よ灯焼有上座の人持く先一行してやて中座
下座と行也但灯焼を刀掛の下の如く石の摘石ニ
於く持出るを丸入るゝすし有こもまくしろとめ許の時
ハ中立ニ惣く又燈りけへ行なきと

一 露地へ手燭もちくもし於くしろと敷寄座ニ大れくハ
持く入報もよろし

一 數寄屋へ入てまづ床をよく見候其内をよく次ニ大目ノ釣
棚其道具をよく見下ニ置下其道具をよく揃中よくよく拝見
其後のおニ至て置合候時中程と水こぼし其間ニ至て侘
びしく其炭棚一つざる様ニ心得べし
一 手前の時必其きはをすぐ其きはニ置て茶碗拭き
茶巾拭くさき見水こぼしニ置ける時よくよく拭くべし しめ
此いづれも也ていまし拭之後茶碗むたる時大きさ流しくて
ゆていまし出し茶之後取りて置て口をよく見れば口伝
茶杓之様此なり
一 棗此時治此茶杓巾ひ茶を掬之茶杓拝見仕候と礼
くるいをひげをよくよく見る時おつ 帛紗かけしてよ

よと礼をもまくとおぎ有之出せと先ニ置ニ拝
ため茶杓之家中位一置何しも清見る前を有布と礼拝
見事之次位一同茶のれたる出して之後く見まいらし上座
一拝見之常此時之付まていまし治て清し一入る時
茶杓出し置帛紗ニ茶をいとつ之のけていを我が
一して出ていましおれ時礼いまし
一 拝領此茶杓此お取るに八ある事其葉をつけ拝
帛紗ニ茶て出し見拭替之事なし
袋之様此なり
一 拝領此茶又此時八候しく清拝領などと礼を拝領ニ
ても拝見仕事と礼て之出ると見てこれを拝八

盆點の時ハ盆の真中壁の方ニ茶入袋ハ向ニ置又
一置半の時ハ盆の脇ニおくことある也の方を向ひて
置口傳

茶入之様三の事

一 茶のまへの水指の蓋する時之

一 袋茶碗の時ハ水指の上へ茶釜上時之

一 菓子の時ハ蓋置菓子へ上る時之

風爐炭の事

一 風炉の炭ハすミする時ハ香合も置之火炭ニ
柄杓たる時ハとんくへ置く是る炭ハ風炉ハ
くさ灰由ヘニ崩也おきも由ヘ置月の置く

其方を置することもある時と同前

手水遣様の事

一 手水の置様ハ立の時ハはつひひへく此柄杓と水とをけて柄く也柄杓の掛様ハて置振よおかたを

足袋の口傳の事

一 熱して茶の湯よハ草鞋足袋ふく支の

寸法之部

数寄屋并寸法の事

一、床之高サ七尺三寸六分要く此上より天井の框縁
之厚さ此天井四尺八寸幅二尺八寸たゝみつけと床縁
の高さ四尺八寸也
一、框の長さ床框並に此皮つきの柱末取付けからもとよりも上に
てもの入しきゐも同じくねり八寸六分の高さ也
一、床縁の厚サ壱寸六分長さ二寸六分
一、床の天井八一枚板にして床縁を入ひかへ天井之框
にて破風のうちきる之
一、床の間の柱窓の脇の八寸あり居より三尺二寸六分

上に有遠州ハ此窓居より二尺七寸上に有窓の大サ幅二尺
二寸長ケ三尺六寸五分也
一、床掛物かけ此釘長サ九分にて角にて先より二分下にて
二分下り皮の外に付上へ寸の釘をすえ床にさゝえを付
る竹釘之
一、掛花入の釘は床より三尺二寸外の上にて
曲り下二分の床の中柱の外より打てよし
三尺二寸床の釘は右の寸法に床縁より入てよし
一、釣舟の釘床の柱より中柱へかけ角に寸打迄
一、天井の高サ六尺二寸天井縁竹之框縁八寸之天井八寸はの
まことにする又天井縁に数寄にまくしする事もある

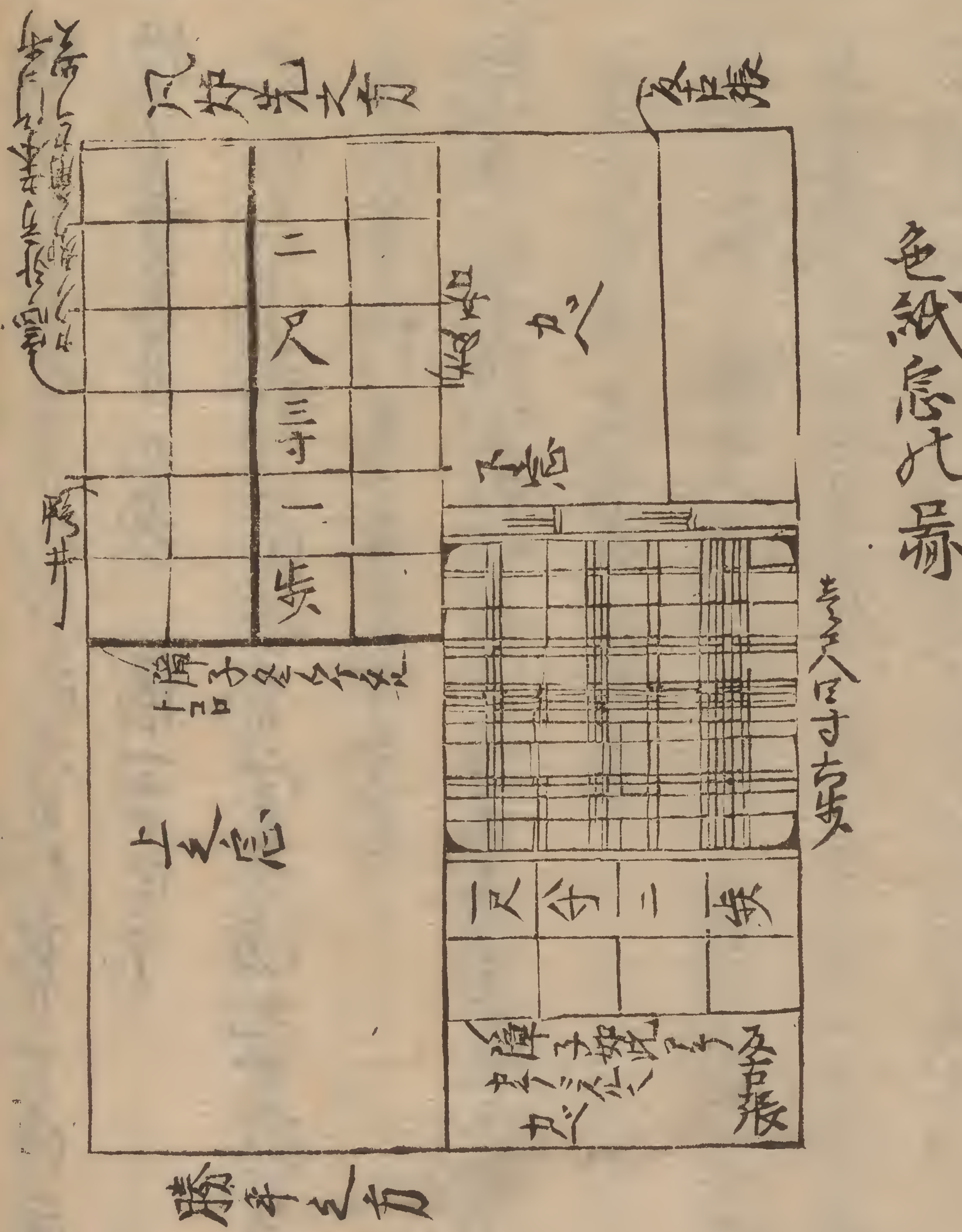
一、框の厚さ二寸八分九分ニ寸まで有之
一、板敷の高サ土台敷居の上端まで一尺九寸　同石の高サ二寸五分之
一、然して鴨居の厚サ九分不ニ依てをすニも寺弐分まで八
一、踏揚の高サ二尺二寸幅二尺
一、同敷居たゝみ敷居之戸板なく立つき八寸中ほど七寸戸尻ニ段
一、同上の竹連子円障子之恰合見合次第竹連子ニ有之
一、此勝手張の高サ一尺八寸二分踏揚の勝窓の下ニ張付ニ紙
一、大目の高サ六尺二寸外の方之障子裏の附ハ中ほどの上五寸上て
六尺七寸にして[illegible]を付け端ニする竹たる木は先ニ五寸
打て其竹釘竹ニおびニて竹の切口の下を切りたる木の
角ニ立三ツ一本入るおもしかくしたる木の上をてつのせ候の

竹くし有之り天井高る梅の上ニ赤板ニ写し裏をおくか
やねうらの附ハらんを打付てはかりと有之
一、大和ねうらの附ハはしかハしこまいと縄有之
一、大目の天井と其天井高く張附ハ色ニおね有ニ寸其附
つき上ニ窓に有之候
一、大目床の長サ尺七寸二分中柱まて三尺一寸五分中柱の上五尺
五寸八分ハ三尺一寸あり其[illegible]有之
一、門たけの下のたる木二尺二寸之竹の子サ九分幅一寸八分之
竹たけの上ハ之べニ水有之
一、曲柱面付一寸八分四方二尺二寸上より曲りて天井きハ丸ハ
又比つの敷の如し其押ある本ハ無故後の方分切入て

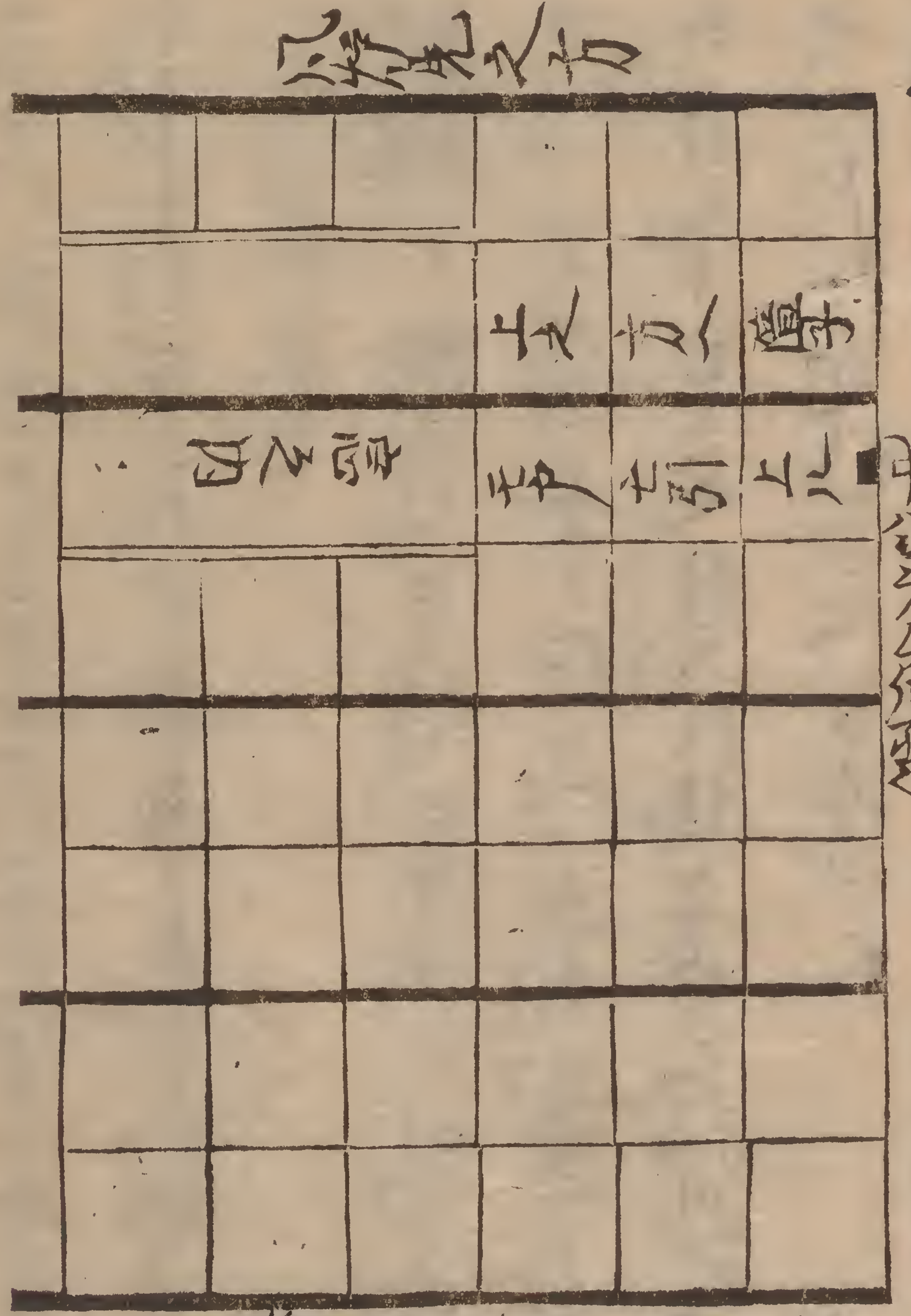
くさびくし曲（まげ）るく
一中柱ニ髭掛釘八ツ所ハ下端（ば）ゟ二寸六分上ニ柱の真中通し（き）
紙（しき）窓ニ向（むか）ひて打之打釘ハ何も五分角ハ竹ハ七升四分ニ竹ニ
一風炉先ハ窓野（の）井口の事長サ壱尺八寸八分幅一尺六寸下
地窓ニする之角（すみ）く丸くめぐり出し地敷居ゟ七寸ゟただ敷居
三尺一寸めぐり一重ハにする之又めぐり出し此時ハほうだてハ竹也留
敷野井円ニ八寸ゟアリ通ス円ニ障子（やうじ）立野井敷居樋（ひ）
角まで一重ハへだて障子あけたる時ハあけおはしにする之外ハ雨
戸一本付庭（ま）含（がん）ハ時ハ雨戸立之外ハによすべし色をかくる
一色紙窓上下色紙張（はり）る心ニする　上窓
一長サ弐尺一寸八分　幅二尺三寸一歩

一、鴨居敷居ハ厚サ九分宛大目ハ長サ一尺ハ二通ひ一筋樋（ひ）之
一、ほう立厚サ九分　幅一寸四分
一、窓ハ真ハ中桟ニ二通厚サ四分幅九分ハ木入
一、外ハ方ニ竹立ニ太サ寸ありまし
一、障子一本ほうだて際ニ立七本桟二通遠州（えんしう）障子（しやうじ）ニ又同し
たてあつさ三分中八分歩
一、円下窓　長サ二尺八寸弐歩　幅一尺四寸六歩
下地窓ニして廻りハ丸まるバニめぐりあまり宛角くめぐり出ス
一、中柱ニ向ヘて所ハほうだてを一筋樋也
一、向ハ高ゟ一尺七寸三分ニして窓付窓ハ後一尺七寸四分
一、障子立四本横四本常ハ障子之障子ハ厚中二分五厘三分

一二尺七寸ニ一尺横ノ窓ニ間ヲ立此方四寸五分竹ニ
以内ヨリかけ戸しまり横ハ横ヲ深敷なり



一大目内法ニ上窓作ル事此内窓此間ニ一本尺横ニ障子ハ
上ノ方引張ル上ヨリ引する也横ヲかきて此通横に
下ヘ押ル障子の上ニ雨戸しをびハづべしつき上ニするかけ八寸
すけアケ窓之中ニ立すぎて八分つき竹あわせ之窓此附
下の窓する本組之
古氏持ル置ル時ハ



障子之方あとニ付る也

一．大目ハ縁張のなき廿七寸五分但まと丸付八八寸二分なり

一板畳ハ幅一寸八分中柱ノ下モ向ハ板畳ハ棚ハ板畳ハ幅をとつまりなり

一．角棚下棚長一尺幅九寸何も足ぎハよりなり上棚長一尺二寸幅一尺五分上下共ニ八分、五分宛のかこみありてつりたる入隅ニ仕付るなり袋棚ハ幅五分之板ハ厚サ六分宛桐板也上下たなハ高さ六寸五分之

一円釣棚ハ上下ともなる六分四方ハ釣竹とする之上ハ棚釣竹ハ行ちがひてなり五分ハ内ヘ入て出口五分折返し行事一六寸行を張たるも趣有と申大目ハ天井より釣置る

一．茶道口ハなる廿五尺二寸幅二尺二寸障子ハ下ばかりの紙ニ

張上を腰古張ニする切引手内ハ方七分ふ勝手ハ方六分め文字ハ丕切頭ニ切て立之外ハ方丈居野井なり

一野井ハ丈居幅二寸二歩厚一歩極野井厚サ二寸一歩程だて厚二寸内ハ方居る面二寸二歩

一．炉ハ内九寸六分四方土壇なく一寸深サ一尺二寸なり炉也

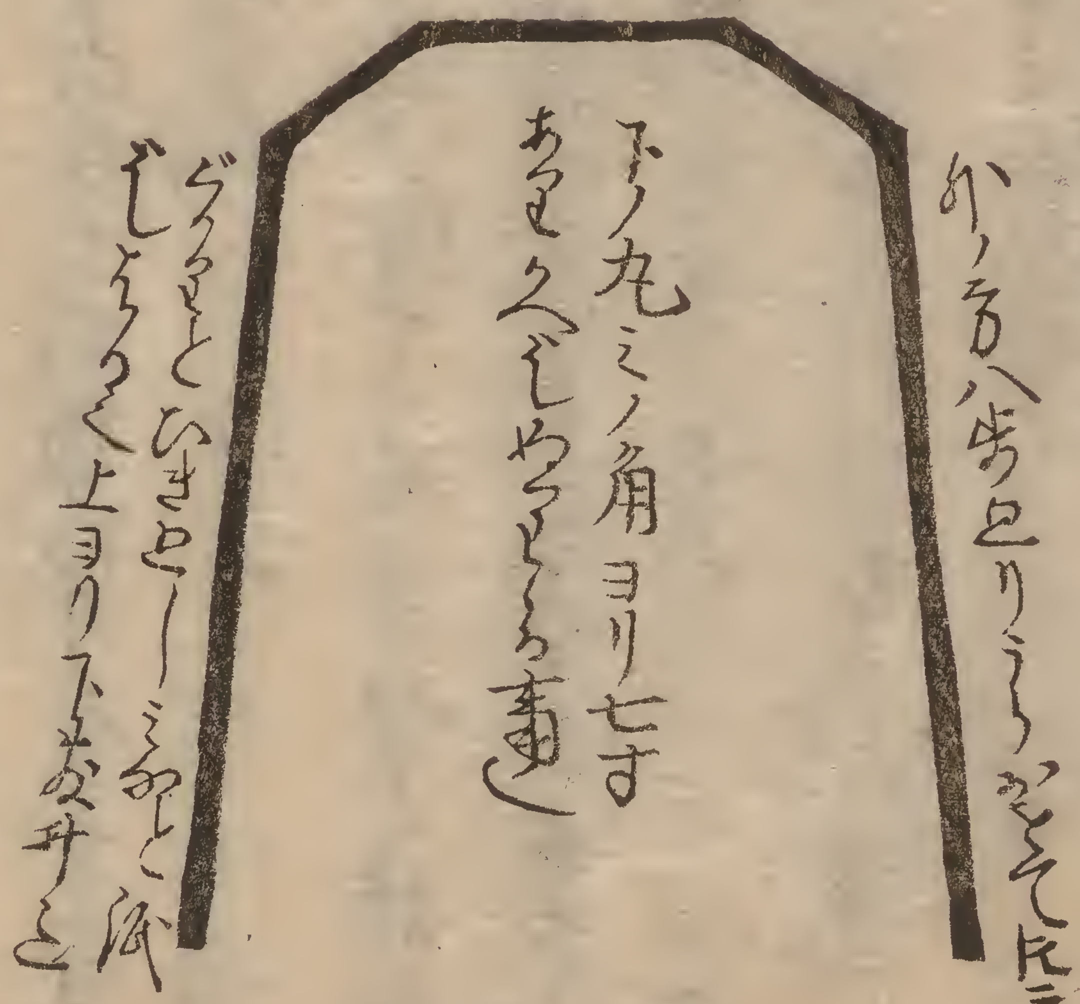
一囲炉裏縁指板ニ向ほぞ一尺四寸四方外の寸之厚サ二寸二歩長ケ二寸二歩厚さの内二歩ハめんなり

一．通口ハなるサ二三尺八寸五分幅二尺たいこなり障子ハ下美濃紙ニて張上厚さ奉書ふ表なる切引手下ハなり右め指手ハ方六分め

一壁ハ上ハ指口張出作久なるの腰舗す付なり

一上の丸之の丸にまいくしいおふくさ中へ柾くしすたを定て
玉切るごまいと竹梅なべと切るなり

大焼口の図



一窓の外のけ戸ノ小窓のさん八中一通中窓八中三二通大
窓ハ三通ニすゝく

一刀掛上の棚長サ三尺一寸幅一尺六歩縁丸ニ低ニ尺
一寸の内を七寸七歩宛ある主太さ張ゐを入九角なり
ある縁ハ長サ九歩厚サ七歩之中三本の張木ハ長ケ六歩
厚サ七歩　下棚長サ二尺三寸七歩幅九寸厚歩張
けさの入板上棚と同お縁なりまなり旧おト上下の棚の
ある七寸釣木七歩と六歩下へ釣木の角なり六歩おス
一刀掛の下石鉢次ノ二寸入梅石の上をる刀掛ノ上棚まで六
尺三寸故ニ石をすへて刀掛のたなをつる
一踏上り石るサ三寸六歩けこの板まる三寸六歩のく
一相居の石るサ五まる一寸六歩なり
一縁の石のるサ織部ハ一寸六歩遠州ハ三寸なり

一 地袋板のあつさ九寸

一 石段のあつさ鐵ハ弐寸五歩段の幅弐尺四寸を

加段のあつさ一寸五歩幅八寸也

一 膝かけ幅一尺八寸五歩鐵部之二尺八遠州縁掛高弁

ともに一尺八寸つゝ石のあつさ弐寸五歩從上弁切石之もち

外ハ猿ともに十二寸する之

一 膝かけも弁五歩幅六尺五歩の円二ッ上ノ方膝縁ハ

尺八ふとさ又六尺縁縁又六尺八雪隠（せつちん）の子ハ斤羽（さや）ドて羽口の

切げさ高サ六尺二寸ばかりにして本式ハ大和ぬきなる

物之外の方ハ扉（とびら）の如くして上まで色ぬきさくこ二する之

一 ふとさ幅二尺二寸長ケ二尺六寸十より一尺九寸上まで弁之

色ハ友君の上諸とすをつとる也

一 内縁をふと客人の下に窓付鐵部ハ縁掛ゆうとこ

對板ニ幅二尺高サ二尺五寸して上むかふを州ハく

外の上ニ下ル窓あり

一 刀掛の幅ニ四寸よ為帯掛釘長サ寸一歩ヰ口二歩九く

印さとしてかなと帯を印てうく下より八寸上て

印なる也

一 踏石ハ何とれのひちしきも外縁掛けて下まで六尺九寸也

一 大和ぬきは立也

雪隠（せつちん）の寸法の事

一 板のゐとさ二寸七八歩三寸らし栗（くり）の皮つき又板之

一柱たて窓の方者ゟ下まて土ゟ五尺八寸なるへし

一かべごまいハけた戸の上まて二方するとたて上の方ハけた下二くべにするなり

一たる木竹之戸の上一方ハ五尺八寸ニ鴨井入れたるもの脇めどハ五入戸の上茅ハる上二方ハけた上貫通し之こまいハ竹之茂こまいかくし

一窓土ゟなるへし一尺七寸上ニ付るへし窓の長サ一尺七寸にて二尺二寸外ニ窓の中ニ竹の柱有ちらし窓の高さ五寸上下ノ窓の高さ五寸なるへし

一炉内幅九寸深サ九寸長サ二尺八寸

一炉ニ押し丸く拵ふし六寸五分四方深サ九寸六寸径ハ土之葉入然上ニ秋ハかいて此葉を入る下之集ニ鯛桶上ニ有るへし

一屋落間ニ竹箭二本有長サ九寸五分本ハ角ニけずり末丸くけずる先ハ一文字之木なるへし二寸あまり之節有竹の皮ニて付并之皆竹を用ゆ

一おもての石壁ハなるへし樽の内まて二尺之

一おもての石ノなるサ土ゟなるへし七寸四方の石ハ丸くくんなるへしともあるなるへし飛石之きんかくしの石と云

一後の石かきハなるへし九寸高サ土ヨリ一寸五分

一戸の長サ四尺六寸幅二尺二寸

一鴨井内のなるへし土ゟなるへし五尺八寸

一戸なる時は石一寸五歩戸は釣掛石ともに一寸五歩
一觸枝長サ二尺二寸厚サ七歩幅一寸手本〆の事之
未しハ幅二寸八歩又ハ厚サ一歩手前ニ而一歩ゆるめる
一腰板高サ九寸後の方一尺三寸之
一戸口より向角柱より二尺めニ竹を立帚かけるべき
寸之金れお篠帚の先土より八寸上下寸之従丸余せ
一此ゆき此雪隠ハ行燈すきに二尺まで未ニて立る土壁
尺ニして六尺め又廻り縁を付る行燈は方窓の尺度
よ作り行燈比上六尺明たる方に八六尺比つき上窓比如
くかけ戸を掛る之毎腰ニ寸びハ枝につき立る圓の
ゆき作たる手にして竹比こまへをゆきことを上にへぎ

め板高さ上ニ而わんどをすゆいゆくを立つるくサ角柱サ
居し路地比植込比中ニ立る
一荘雪隠ハ白き石を刻石ニ而そくくとゆきを同ク立又く
下腹高居ハ須砂を立石高居ニて須砂立時ハ下る
吉原之
一下腹高居ハ五尺五寸
一雪隠長ケ五尺六寸のき
下とも三寸のくゞりハ
雪隠比置板長サ三尺
五寸幅一尺八寸
おとし口比せき

長さ八七寸幅七寸くぎ板ならび廿二ヶ所幅三寸ほど外板八枚
内釣板切かく置板高サ四寸お板かし
一 長さ但し戸口く延尺三寸長ケ四尺三寸釣下より五寸四ヶ所
上て釣
一 世して長さ但し八脇虚につゞく長さ但し可らやぬき長さ但し三ケ所
下段ゟ但し三ヶ所ッツ二ヶ所く七寸ニハ下段は此口間すく
鏝之間之事
一 天井は高サ七尺五寸　床ハ数奇屋ニ同し之
一 床脇おれそしつけ地板吾ぞよ三尺五寸
一 床おれそしつけ違棚彫并足り上して上へ入る
一 天井とは但し此格縁し七寸ほど肥き此もサ一寸六分す曲り

此方八分曲りとも此下七分欠くぎ此長さき釣分
[illegible]

利休さと右寸法事
一 長サ三尺　長ケ一尺八寸五分
一 深サ一尺三寸　棚此方六寸ニして一ッヽ一枚棚ヲ
釣棚板く一尺お此方以上勝手此方脇板ニ上ケ三寸
下門寄ニ上ケて手ニ揚り口けり
一 お戸ノ二段障子にして[illegible]張中ニ切り
[illegible]此端ニ付し従の方ハ杉戸之[illegible]此内へ戸ノ妻
の有段にて二段戸之遠目ニ[illegible]
段ニすく

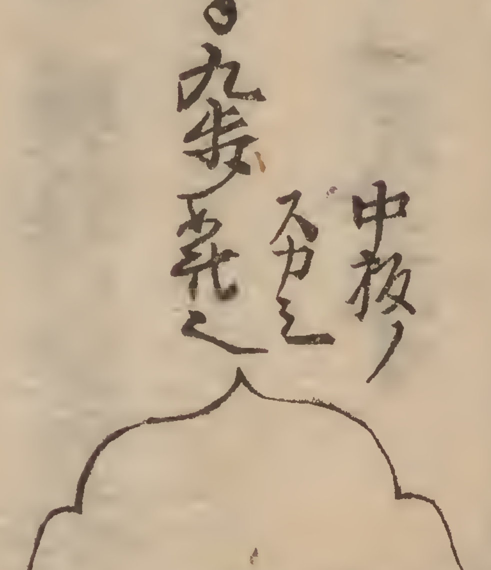
織部古流の寸法の事

一 長サ外のわたし二尺六寸　長サ内のわたし一尺八寸五分
一 深サ一尺八三寸大月脇へ押也上り縁なし両方へ寸三分
の方ほり立ともに六分角ぐりかへしほり立に寸分之高の方長
の方何も利休形と同し
一 内のちいさな風炉先の方長サ二尺八て一尺一寸ちかう縁の
の方長サ一尺六寸うく　同高風炉先の方柄一寸ちかう寸
下て釣棚の方五寸ちかう九寸下て釣あの方六分尺の方
の釣末六分下へ角ぐりあきの作の方八六分六分也
棚の後の方高て少しづゝ釣の色付に何とするの
手水鉢の寸法の事

一 棚手の方のつと手水鉢の上まで二尺五寸　此石横流して
先より手石の寸法之畢きの分ハ高く　おいて此石を手水鉢
の方出門処二尺ほど五分
手水桶寸法の事
一 長サ九寸　指渡し内のわたし一尺二寸
一 末の方サ六分　輪ニ側之縁向ニ添付ハ縁の通分一尺
上テくるぞこ添ふる　柄下縁の方二尺三寸ある
手水杓寸法の事
一 柄の長サ一尺七寸　呑口の渡し三寸　長サ二寸
の分　板の方サ一分　杉を用る
其外寸法の事

一長ケ二尺八二寸　長サ三尺　板ハ一尺二寸五分
上ハかゐク無く付ル事　天井板幅一尺三寸ある
裏ハ桁ゟ彫ル也言　下板ハ長サ井壱寸六分
表一寸ハ四方ハ又は　柱ハ始ト之八分四方
八分宛長方ゟ内へ入く柱二ツある也
　袋棚寸法ハ事
一長サ二尺八寸　天井板長サ二尺四寸ある
一柱ハ八二尺四寸ある　違棚上ハ棚と天井ハ間六寸ある
一中棚ハ二尺二寸七分　下棚天井下ゟ二尺一寸六分半
一小縁面不上ノ棚との間二尺一寸七分
一袋ハ内の間長ケ六寸ある　柱ハ始とき六分四方

一板ハ厚サ五歩ノ何モ同ある　刻板二尺八寸幅一尺二寸ある
一柱之寸宛内へ入て立ル
一違なるハなるハすりハく一尺五歩
一違ハ上ハ棚と天井二尺八二寸二分下ノ棚一尺二寸九分宛之
一違棚ハ板厚サ四歩半　柱ナヽミ入テ
一袋戸ノ板長サ一尺一寸五歩
一長ケ六寸七分板ノ厚サ二分宛手長サ四歩ほど一寸五分
　拍違棚ハ寸法ハ事
一長ケ二尺五寸八分内ゟ一尺五寸
一幅八寸七歩ノ厚四分　下棚ゟ中棚之二尺八歩内の間
一中棚ゟ上天井ハ間三寸八歩内の間　柱ハ始とさ四歩



二歩ほと入て柱ならハ上中ノ棚板四歩　下棚板六歩ニ九ぶ入之

違棚寸法の事

一長ケ二尺五寸六歩　天井長サ一尺二寸三歩

一円ツ八寸三歩　天井下中棚の間寸九歩

一中棚ト下ノ間九寸　脇板すかし物数寸法半也

一板の厚み三歩半　中棚ツ二歩半

一下ニつけすかしの足何も　厚有　脇板ハ二寸入て立之

小及臺寸法の事

一其長ケ一尺二寸一歩　上下の板長サ一尺二寸

一円ツ八寸六歩　柱の幅さ五歩半厚サ三分よめ也

一上の棚下の板ハ円のま一尺　下板ニ足板ニ二寸一歩円のま

一あし板のあつ九歩宛付とし　上下の板あつサ四歩あし

の板ツ三歩　上下の板ニ三歩のかくニ入る

一柱の両脇ニすかし板有上ニをすかし板付る

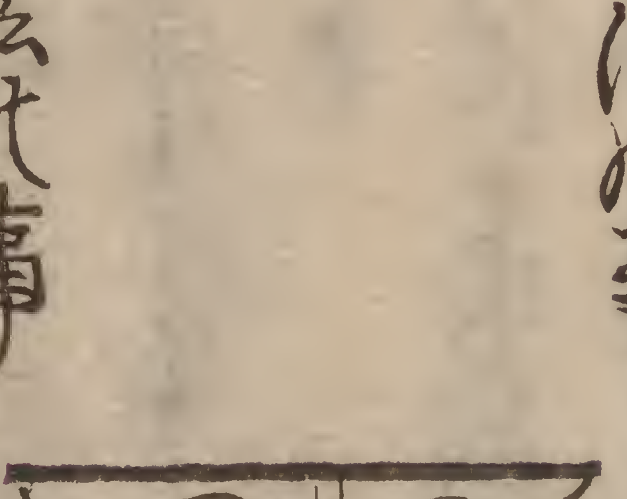
長板の寸法の事

一長サ二尺九寸

一幅一尺四寸

一厚サ一寸五歩

しよくの寸法の事



一長サ一丈二尺上ニ天かさの不足尺計柱小かきとして無

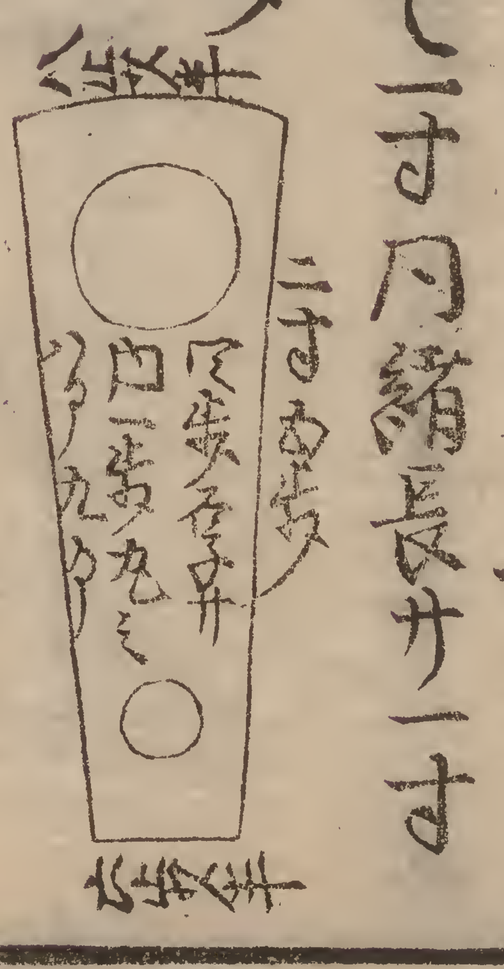
まま天かさニかさ之下ニを小かきとして一尺計なま

くるそてれくあるま

自在寸法の事

一 長サ八尺弁次寸之極縁ハ一尺八寸はかり竹の切口ハ
節ハ九歩　上緒の穴まて一寸円緒長サ一寸
下こぶるの緒まて一寸六歩

雪隠籌寸法の事



一 柄長サ三尺一寸
一 装束の竿竹の皮ニ包ぬ裏ハ表ニ一して三ツ不
緒上の所一寸五歩中の所一寸二歩下ハ八歩すぬまてそ
てミ不緒ゲ二所かくべき也
一 籌長サ六寸五歩中ほと二して上濃すげとの通をす
難波の藤稲を洗物なり

一 緒のはく下の穴まて五歩
一 竹の上緒より下長サ六歩

刀掛の脇ニ掛る帯の寸法の事

一 柄長サ三尺八寸五歩　一寸まへ紫ふちニ…
一 金襴ニ包ぬ四寸内二ツ緒上の所二寸下一寸五歩
一 緒の長サ一尺一寸ほと二して内ヲ丸て真を入

業良風炉寸法の事

一 …長サ一尺一寸五歩　長け六寸五歩まて
一 内のり九寸一歩まて足の幅六寸一歩円長サ二寸八歩縁
七歩八重ニ…丸くして

羽箒の寸法の事

一羽ハ長五寸一歩竹ハ皮と羽ハ長一歩ゝ笋皮ニ包ミ不
三寸一歩ゝ緒樋口筒羽ニ依テ太くすれハ明ケるニ太ハ寸法
之過ト成ニ付ても無不シ合てすこし免角すると柳の
九寸とそが月ハ舟不合也

風旙光扇風ハ寸法ハ事

一長ケ弐尺円五歩まて六歩ハ縁之縁ハ竹はゞしとする
一長サ三尺一寸五歩又三尺又八寸尺九寸五歩ゝ添ゝ
一弓子扇風ハ長ケ一尺八寸五歩ゝく
右此扇風ハ表面ニして緒を書也色紙冊尺張す
八分し縁ハ仕様ハ本法ウるゝ也毛上ニ手ばんごし折付ニ
すゝく弓子扇風も仕様明らか支度へし

風旙小板寸法ハ事

一板ハ厚サ廿六歩長サ九寸八歩小口ハ上方九寸五歩小
口より竹ニ打つけハ端入りして上ミゆるゝ也

遠州ハ薄板寸法ハ事

一丸板大サ二尺九歩ゝ厚ゝ九く矢ハ長之円を朱ニ
形すゐ小ハ一尺四厘し縁ハ目より双ニすゝ候
よ重一ト十二匁十三匁

前薄板寸法ハ事

一長廿一尺三寸五歩　幅九寸五歩　板厚サ廿三歩
ま座ニ重一ト廿一匁　十八匁
作輪之寸法ハ如し

一長ケ一寸六歩ノ指渡し七円支　私曰弐寸ニ縮也
　茶巾之寸法之事
一利休ハ七寸布也
一織部ハ六寸六分布也
一遠州ハ五寸布也
布此ノ寸法ハ茶巾ハ也ぬいに
する事ニ至ハ嫁也ぬいよし
私曰布六寸ニ切て縁伏也ぬいに
する時ハ五寸五分ニなるよし
　釜悦寸法之事
一布縁ノ方ニ切縁ぬひ也ぬいにする五歩ほどに切ハ
ノ方ニ無ク太茶巾釜悦也ニハ議ニ上縫也
　悦巾寸法之事
一利休ハ長サ九寸幅五六七尺
一織部ハ九寸五歩ノ方

一遠州ハ九寸五歩幅八寸七歩
右三色此内織部此寸法よし
　水盈寸法之事
一巾縁し五寸五歩　長ケ弐寸五歩
　懸棹寸法之事
一長サ三尺四寸五歩竹此太サ三分まり径歩大小口
矢をはめてきハと糸ぐしまく手本一文字切五分の
けて穴を明紫皮ぐし緒を付座此勝様ニ受
　長大節寸法之事
一長サ一尺二寸八歩　手本と竹此子皮ニ巻之皮乃
毛寸四寸九歩ノ此先一歩ノすまてまんかく此なるべし

くしまくこ縁火筋ありめるなし

炉火箸寸法此事

一長サ八寸七歩円四分六歩梅二歩あめて針金を巻

梅けいらし握口作従末ハ本なし之

風炉火箸寸法如左

一長サ九寸以とちらし二切作鉄火箸之先ハ柔らか

かありて又唐物ハ七目取らしくりくる此さくりて火箸

あるしとも也

一摘此長サ五寸円一寸二歩 柄此丸付

灰抹寸法此事

一まゆ不長サ二寸一歩ありつめて円一寸八歩事

舌先一文字ニかりめニすり鐵卸形之とらしとるも家ニ

ケ上す八家おゝとも云

小灰抹寸法此事

一摘此長サ尺寸二歩内尺寸一歩作皮を巻き吾と此二

筋ある之作ありきして

一舌先と二寸六歩丸めて円一寸

座灰寸法此事

一柄長サ一尺一寸五歩 抹不此ちく二寸三歩円長サ

三寸ともし歩ありて

茶釜洗寸法此事

一柄径二尺又八八寸二七長ケ二寸五歩板なを寸サ二寸

行口の寸法の事

一 高サ六寸一歩　口の指渡し六寸三歩　外の色

一 板のあつさ三歩　手の長サ五寸　外の色朱　内ハ黒　長サ二

寸四歩　脚ニ付る二歩　内ニ一歩二分ての〳〵九歩

一 木の厚サ七歩八分　内幅七歩

一 口の長サ三寸五歩　口の本幅一寸四歩

一 三ツ口の高サ四歩　蓋の厚サ一歩才　蓋のふち五

歩

挽物寸法の事

一 挽の長サ一尺一寸三歩　口の指渡し二寸五歩

茶筅寸法の事

一 長ケ三寸五歩　内の節下九歩より上ハ二歩　竹の太さ

炭取之寸法の事

一 箱口の指渡し七寸九歩四方　内も七寸三歩四方

一 箱の長ケ四寸六歩　底の長ケ四寸一歩　内上三歩

下ニ張末入九分　すそ三歩四方　底張末八六歩すそ

九分箱の内へ入て二歩箱の縁ニ指せて底の内下

三四歩六歩　箱の板の厚サ二歩二り三底板内事

数寄屋灯籠寸法の事

一 八寸四方上二歩すぼり　六歩すそ四方　柱の幅とさ

蓋の長ケ一寸八歩　二歩すその板をはさ一寸八歩

之所を三ツニ割中の節あけて蓋ニ笛上一寸五

しその極ニする

如此の板をけやり

延三寸り竹ハ角透てすり之
一路地灯籠ハ寸法同支之上と二枚板ニ付ル方
一寸宛ニけさと入そよりと下を張ニけれれ方ハ寸り
しけむりをおちこ之上れ板ニて六歩れ竹にをれ
入ほとニ角透てめちときとすりあつる
一ふとてハ大竹を小口切ニして長ケ八歩之土器ハ焼土器
之路地灯籠ハ黒ぬりニすり敷寄屋灯籠ハ木地
也

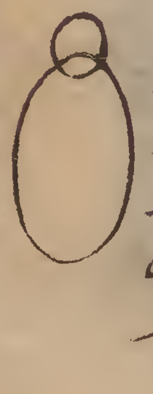
短檠寸法れ事

一長ケ一尺六寸五歩月四寸二歩箱一尺二寸三歩さ
と也　箱長サ下七寸二歩月幅五寸　九歩

一筆まれ高サ弐歩半月蓋四歩同さと一歩八分れニ入る
一棹れ口二寸一歩本筆れめんとりて
一月高サ六歩　箱れ内深サ二寸九歩
一ふとでれ笹抜様し九歩七歩半あまり下て
一ふとでれ輪と一寸
一高サ一歩づよめんとりと　ふとで抜様し二寸八歩弁
輪れ大サ一歩強　ふとで抜穴弓穴方表にんごき
一棹穴れ長サ一寸三歩半れ手穴すじ之て幅八歩

遠州筍花入寸法れ事

一長サ八寸口二歩半節から下一寸七歩
一絲環れ所と座縁まで一寸



釣瓶水指寸法之事

一 蓋之高サ弐歩半　箱之高サ二三歩半

一 取手之はゞ巾九歩長八歩　長壱寸七歩蓋尺ニ

一 上之刷き円の高さ六寸二歩半

一 釘打りし之方本ぐちの高さ七寸一歩

一 箱き八内の高さ壱寸六歩半

一 釘そこぎハ六寸四歩み内のり

一 角ぐし一歩出して釘打仕上て

一 丸手之高さ耿六歩四方　丸手之口釘之方一三寸四歩

右釣瓶ハ縁けずりて立梅かねくぎうち付ニする

揃子みた之事

九三
丸

一 都之指子本ニかりたる皮去尺表を上ニして打付るを付てもよし縁がつくとめ打数ハ七太こと手く

真手桶寸法之事

一 真之手桶上之指縁し外の高さ八寸四歩

一 底指縁し七寸三歩　七ケ太寸五歩

一 手之高サ二寸二歩巾一寸五歩

一 横手之長ケ八歩手之高サ五歩　板之高サ四歩

一 足之長ケ二歩縁之下ニ付るく一寸

一 上之輪一寸五歩下ニ有　下之輪ハ底ぎわ

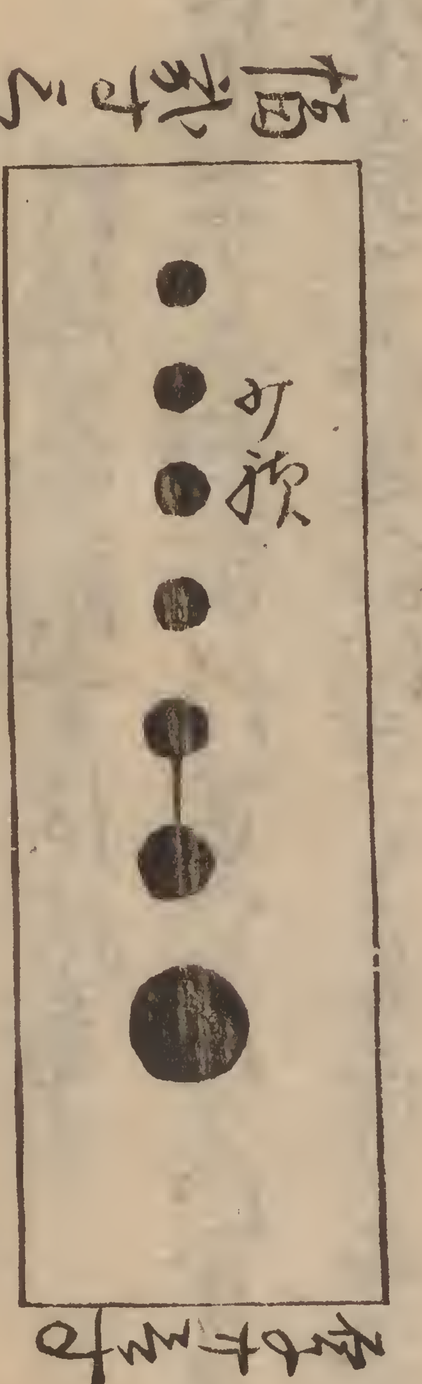
一 蓋之高サ三歩半　両ゑかん合也

囲炉裏五徳寸法之事

一長ケ五寸　下輪指渡し八分
風爐之寸法の事
一長ケ三寸五分　下輪指渡し七分
路地げた寸法の事
一厚サ五寸二分　長サ七寸二分半
一廣サ二寸九分
一ゑんは方五寸二分縁は方二寸五分但し裏は
切かきは下之上はゞは穴上ハ五寸二分下は二は穴
下ハ三寸之四方二先を及之
紹鴎茶酌寸法の事
一長サ六寸二分　かいはゝ二分七厘ゟ六分

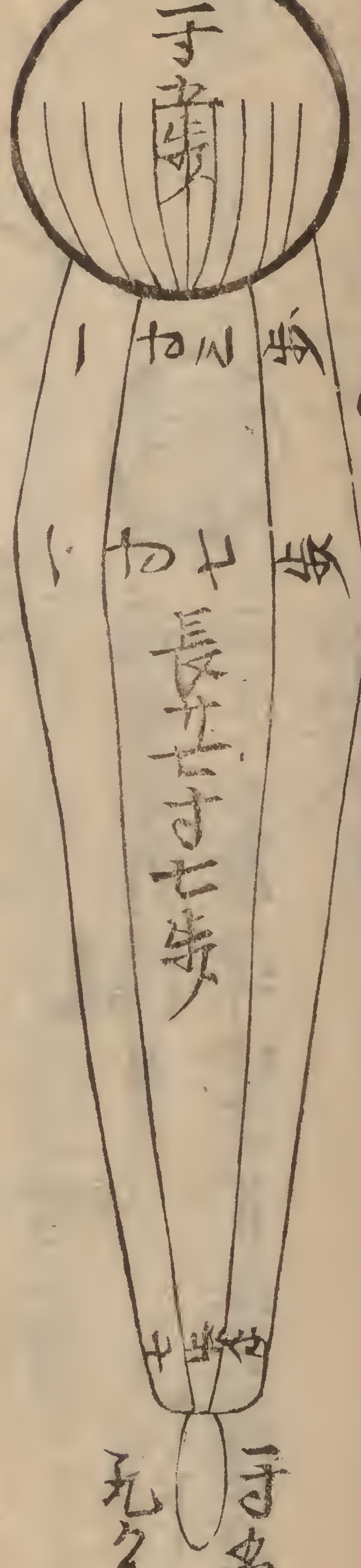
一中ハ柄先まで二分五厘　節かし自然に曲く
利休茶酌寸法の事
一長サ五寸五分半　かいはゞつかまで
一かい長さ二分半かいはぎはより節まで二寸尽分有
一節より柄先まで三寸一分半節かゝはばは五厘二分
す節の上二分　柄先一分九厘　節とかいはゞは
一厚さ五厘　柄先と同し　かい先からかいまで
末は五分半八末　鉤先にする
一右節長六寸八分円二分半口のはゞさ
遠州茶酌寸法の事
一長サ六寸八分　なかゝ節まで三寸五厘ふかく曲ヘ

まて二寸三歩　矢本まて矢先まて六歩五重
矢比楯三歩下ヒ矢本楯三歩　弓掛比さき八寸二歩
先ミうく一歩八重
右肩比長サ六寸七歩内四歩蓋
〇元浦　秋野ハ比たきれにきと我宿よ
麻比ゐおくうつしてしるゑ
振の手段比手扇

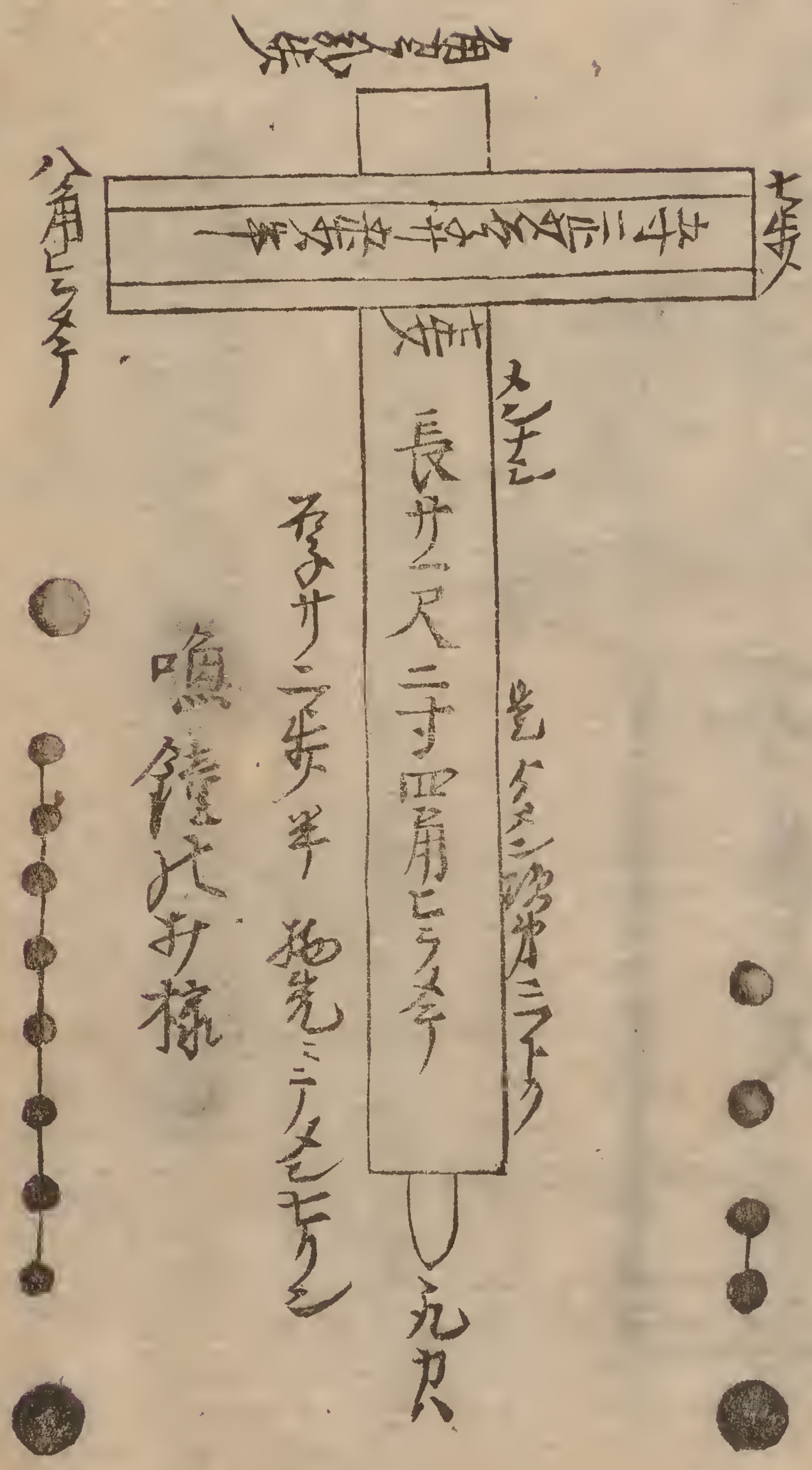


内比ゟわりく
くしとりよの里
仕うろ

右布末比三八角ニて叩ける比めうくを免くすり唐ひ呂し
喚鐘比手本之扇

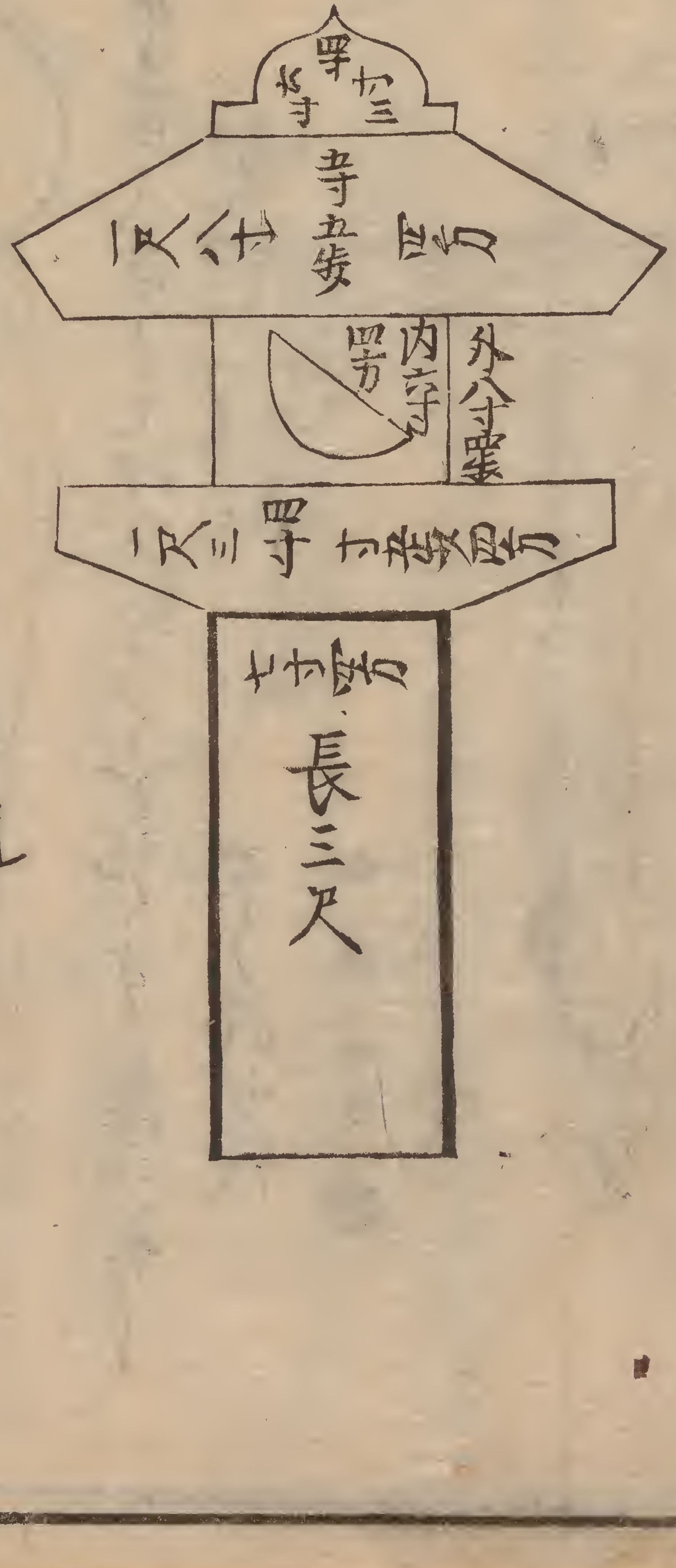


ごうれ手段



喚鐘比手様

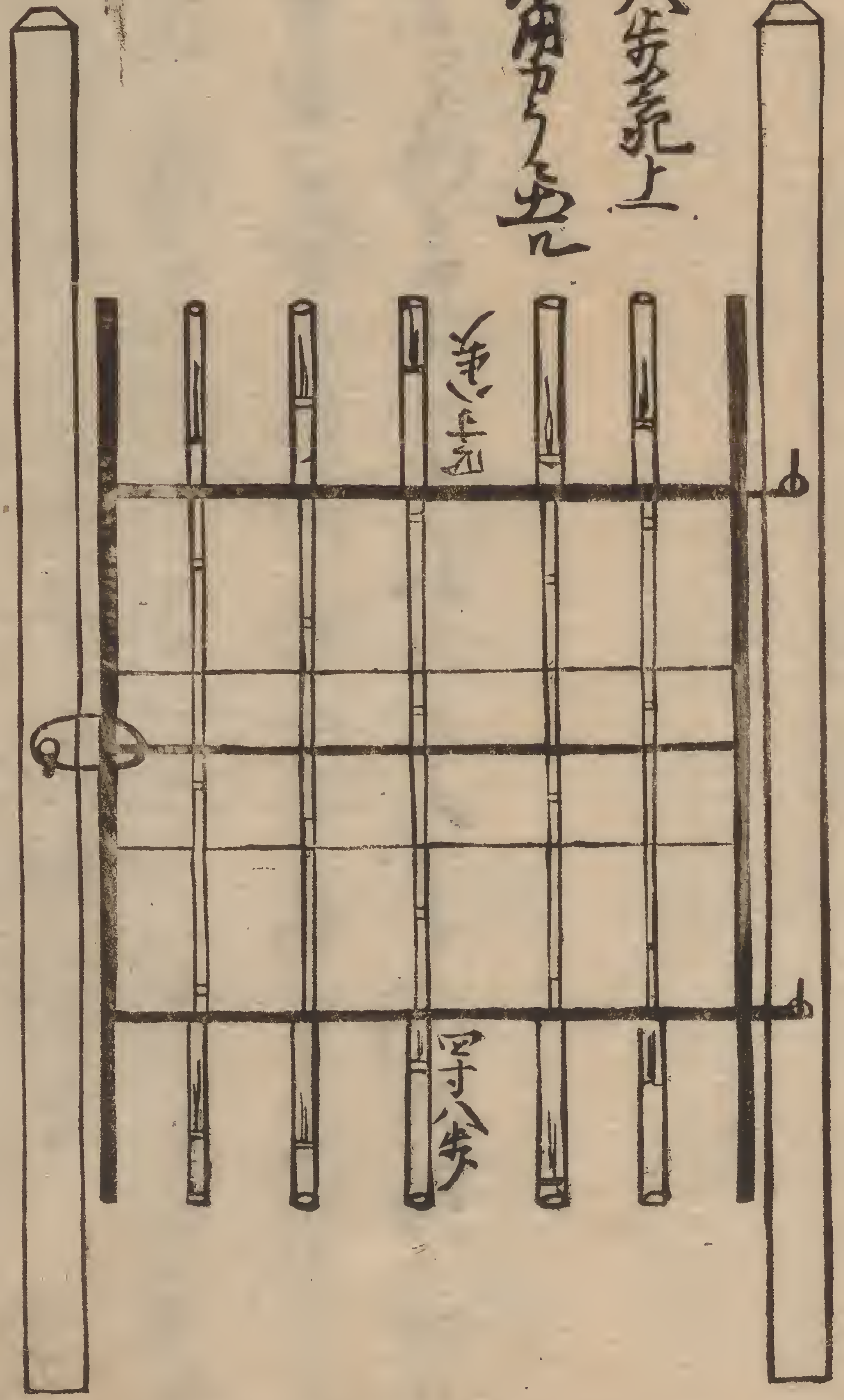
石燈籠此高寸法此事



両方半月満月
両方四角六寸四方ヲリヌク障子ヨリ
仕込之

はり戸此寸法并ニ図

一 戸幅弐尺七寸五歩 長ケ三尺八寸五歩内



四寸八歩竪上
下此間ハ通り

一 竹ハもとをも五寸又ハ五寸弐歩 竹をさしまはし
廿五歩まで也

一板此等項ハ下此本白ク写字方写等き上ハ黒く白ク
下けて板数ニ板也立ニ行本剝ニ行ニして
すこし紙を本をならへよして押縁也
一門柱八何も此以呂付仰ニしを写をなかれきて
ま字よ一文字の句法ハ切ニすり成ヲひらく し鈎
ちくさ色よりて成けり門此願ハ等埴
かろし

先師道可先生者加州金澤人也
少時雖遊京師利休古織公門尋
尚此道之知人媚諂数歳雖学未
心叶爰一隠蟄善士堺氏立庵之
受業開来学中須武州江府小坂
遠夘公勤仕采三傳宗編雪月流
傳集三巻然次第不全故愚意述
補其闕略今為十巻全部入先師

道可尊顔殆感恍不斜予頻首拜
伏去自以来秘陋屋已久予門人
強請見此書不得辞命梓旹元
禄四辛未黄鐘下旬日洛陽隠士
廣長軒元開跋

書林　京極通高辻之角
秀嶋平兵衛梓